



「離してっ！ここから出しなさいっ……！」
（あの黒い怪人…私を捕らえてどうする気なの……？
それだこの森は…今は早くここから抜け出さないとっ……！）

ボ…

クワ…

「ま...これは...?」

(何...? 禍々しい力が私に集まってる?)

ひんひん...



「あぐっ…！まさか私の身体に入り込もうとっ！
んんっ…そんなこと…させ…ない…っ…！」

ひんひん…







「はあ...はあ...凌げたの？」
へ...!?エクスデバイスが...ど...どうなってるの!？」

「そんなっ…故障っ! まさか今の力のせいだ…?
駄目よ…持ちこたえてっ…!」



「そんな…またあの力が!?
駄目よ…今の状態じゃ…」

ひゃん…





アッ

クッ!!

クッ...

クッ...



ん...ん...

ん...ん...

ん...ん...

「はあ…はあ…変身が解け…てない？
スーツだけ消えて…どうなってるの…？」

「…？お臍に何が埋め込まれてる…？」



トク…
トク…



あは!!

ん!!

「アリスの紋章は一体…!」



アリス

「ひゃあっ♡…身体が熱く…?
何なの…これ…っ…!?」



おっぱい
おっぱい

尻





ア...ッ...

ズブ...

ズブ...

「あっ♡んんっ♡やめっ！
このっ…放しなさいっー！」

アッ♡♡♡♡♡

アッ…

アッ…





ゴッ

「っ…早嘘っ…
呑み込まれちゃうっ…やめてえ！」







ドッ

ドッ

ドッ...

アヒ!





カ...

カ...

アッ!!





ん

ん

ん

「何が…起きたの…?
か…身体が包まれてる…スーツ?」



ん!

ん

ん...

「なっ!?…エクステリアのスーツじゃないわ…。
これは一体…薄い膜に包まれてるような…」

「んんっ♡あれ…?
おっぱい重い…っ…大きくなってるっ!」

んん



「ひゃうっ♡触手が絡みついでっ!?
あうっ…んっ♡身体…凄く敏感になってる…♡」

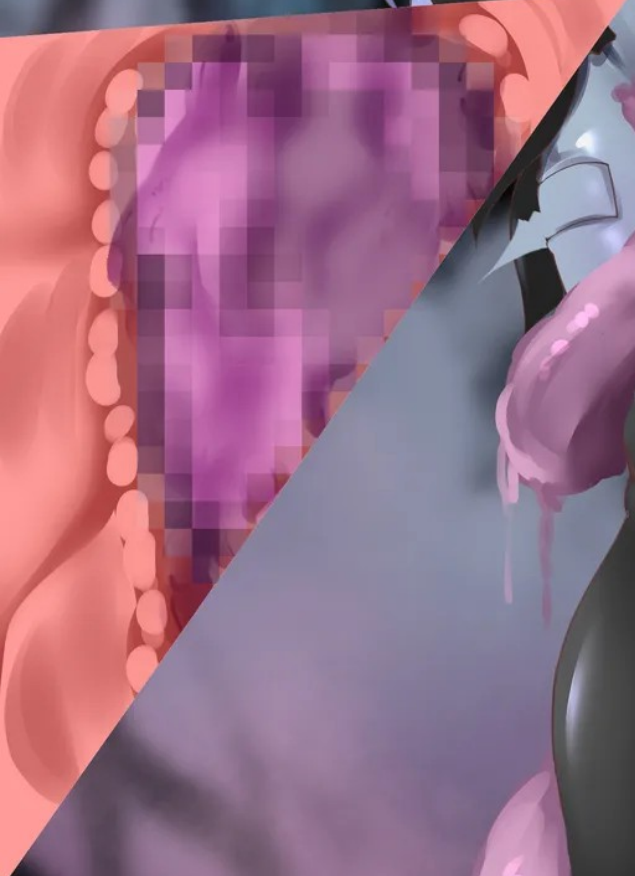
「そっ駄目っ…んっ♡
乳首にアソコ弄らないでっ…!」



「ひゃいらいっ♡
駄目っ…挿入ってきちやっ…!?
んんううう♡」

「んっ!? 熱いっ…っ…♡
私の膣内とおっぱいに触手から何か注がれてるっ…!?」

「んっ…♡
んっ…♡
んっ…♡



「ひゃうっ♡触手に乳首穿られてるっ♡
私のおっぱい…おかしくされちゃってる…っ!」

「わっ…Rんね…嘘でしょ…っ
ふんっで母乳が出るの…っ!」

ガッ♡
ズっ♡



ひんがし

グレイ



♪...♪...♪...♪

♪...♪...♪...♪





アハハハ

アハハ!

アハハ!

「はーっ♡…はーっ♡…そんな…っ…
子宮に触手の精液注がれてっ…」

「それに…おっぱいと子宮の中に何が…
得体のしれないのが身体に入ってきたような…？」

ゴホッ

ゴホッ…



「……………」
私は…インヴェルズの先鋭…」



「ちがつ…私は…」

エクス…ティ…いいえ…インヴェルズ…」

「インヴェルズの…先鋭…」

私はインヴェルズ…インヴェルズ…」

トキ…

トキ…!



「私…インヴェルズ…の先鋭…
人間…敵…」



「フライトフェザー…エクспанション…」



「私は…インヴェルズ・エクステリア…」



「侵略…開始…」

W4!

